

肝臓病

沈黙の臓器と言われ本当に症状・苦情が出たときは、かなり状態は悪くなっているケースが多く、日頃からの養生が大切です！！

「肝臓病」キュートの改善ラインナップ



バイリンク1000錠
1ヶ月分 **9660円**

**元気な細胞（肝臓）を作る材料！
食事の一品一皿のイメージで！**



バランスターWZ120錠
1ヶ月分 **12600円**



サメミロン160P
1ヶ月分 **18000円**

ウイルスに負けない！



バイリンク源液
1ヶ月分 **25200円**

**パワーと
エネルギー
補充！！**



バイリンクBCEx503
1ヶ月分30本 **94500円**

**闘う力
と
守る力**

「ウイルス性肝炎」について

肝臓に炎症を引き起こす「肝炎」。肝炎には、肝臓に中性脂肪が過剰に蓄積し、脂肪肝から肝臓に炎症を起こして発症する脂肪肝炎のようなタイプも近年注目されていますが、こういった生活習慣とは別に肝炎ウイルスの感染によって起こるウイルス性肝炎が、その多くを占めているのもまた事実です。

ウイルス性肝炎の種類

肝炎の原因となる肝炎ウイルスは数種類ありますが、このうち日本に多いのはA型・B型・C型の3種類です。それぞれのタイプをまとめますと、感染源や経路には次のような特徴があります。

タイプ	感染経路	感染源
A型	経口感染	・生水や生の食べ物（生がきなど）が主な感染源になる。
B型	血液感染	・母子感染 ・成人では、性交渉やピアスの穴開け、医療現場の針刺し事故など介して起こる。
C型	血液感染	・輸血（1992年以前に輸血を受けた人）、血液製剤（過去にフ 製剤などの投与を受けた人）による感染、性交渉やピアスの穴開 現場の針刺し事故など。 ・B型より感染力が弱く、血液中のウイルス量も少ないため、母 んどなし。

ウイルス性肝炎の進行は？

ウイルスの種類によって病状の度合いや経過は異なります。

A型肝炎

2～4週間の潜伏期間を経て、急性肝炎を引き起こします。最初は風邪によく似た発熱・吐き気・だるさなどを訴え、黄疸（肝臓の働きが悪くなったりすることで、胆汁として腸に分泌されるはずのビリルビンが血中に増え、白目や肌が黄色くなる症状）が現れるようになります。稀に劇症肝炎に移行することもあります。一般にA型肝炎では1～2ヶ月で完治するため、慢性肝炎に発展することはまずありません。

B型肝炎

B型肝炎には母子感染と成人の感染の2つが知られています。ウイルスを持つキャリアの母親から出産前後に子供へと母子感染すると、免疫が未熟な乳幼児は無症候性キャリアになり、将来慢性肝炎に移行する可能性があります。ただし、1986年以降に生まれた子供には免疫グロブリンやワクチンの注射でB型肝炎に対する感染防止対策が取られており、現在では母子感染によってB型肝炎を起こすケースはほとんど確認されなくなっています。一般にこれまでは、成人になってB型肝炎ウイルスに感染しても急性肝炎を起こした後、約1～2ヶ月で完治し、慢性化することはほとんどないとされてきました。ところが近年では、今まで日本に存在したタイプ以外に、海外旅行などで欧米型のB型肝炎ウイルスに感染する人が増えており、このタイプでは3～5%が慢性化するとされています。

C型肝炎

一方、C型肝炎ウイルスに感染するとまず急性肝炎を起こしますが、症状はほとんど現れません。このため気付かないまま放置し、治療が遅れてしまうことに問題があります。C型肝炎感染者の約7割は慢性肝炎に移行し、20～30年をかけて徐々に肝細胞が線維化して肝硬変に、そして肝がんへと進む可能性があります。ただ、定期的に検診を受けて病状の進行段階を把握し、段階に応じた対策を早期にとることで、進展を遅らせることができることもわかっています。とくに自覚症状がない場合でも、感染に早く気付くよう定期的に検査を受け、異常が認められれば適切な治療を受けることが大切です。

現代医学での肝炎治療は？

肝炎の検査では、指標となるGOT（AST）やGPT（ALT）といった肝細胞由来の酵素や血小板、アルブミンといったたんぱく質の量を血液検査し、肝機能に異常がないかを調べます。また、ウイルス性肝炎かどうかを判断するためには、ウイルス感染の有無がわかる肝炎ウイルスマーカーも調べます。

肝炎と診断された場合、現代医学ではインターフェロンを中心に抗ウイルス薬などを用い、体内のウイルス量を減少・排除させることを目標に治療していきます。

肝炎においては西洋医学による治療がまず優先されますが、西洋医学的な治療だけでは不十分な場合などに、小柴胡湯をはじめとした漢方薬が使用されることがあります。いずれにしても、病人の病状や体質を踏まえた選薬を考えていくことが基本です。

おすすめ漢方シリーズ 「 脂肪肝について・・・！」

近年、「脂肪肝」が30代～40代を中心に増えつつあります。

「脂肪肝」は、いまや国民の3人に1人が潜在的にかかっているとされる国民病であり、生活習慣病の一つと言えるものです。

「脂肪肝」は一般的にそれほど深刻な病気とは考えられていませんでしたが、脂肪肝から「脂肪肝炎」を引き起こすと、それが引き金で「肝硬変」や「肝がん」のリスクが高まると指摘されるようになり、甘くみではいけない病気の一つになっています。



肝臓の代謝機能と脂肪肝

肝臓は主に、代謝 解毒 胆汁分泌 の働きを行っています。

私たちは、体内で吸収された栄養素（糖質・脂質・たんぱく質）を別の成分に作り替えて貯蔵しておき、これらを必要に応じて分解することで、生命を維持するためのエネルギーを生み出しています。

この栄養素をエネルギー源として利用できる形に変換する働きのことを「代謝」と言い、肝臓はその働きの中核的な存在です。

例えば、食物中の脂肪は小腸で脂肪酸などに分解され吸収された後、肝臓に取り込まれ、

中性脂肪に形を変えて肝臓に貯蔵されたり、全身に送り出されたりしています。

この中性脂肪は脂肪酸の他、余分なブドウ糖からも作られます。アルコールの飲み過ぎや食べ過ぎによって、脂肪酸やブドウ糖が過剰になり、肝臓で処理し切れなくなると、肝細胞に中性脂肪が蓄積してしまい、「脂肪肝」を引き起こします。



脂肪肝とは・・・

皮下や内臓に中性脂肪がたまると肥満になりますが、肝臓にたまると脂肪肝になります。

つまり肝臓に中性脂肪が過剰にたまり、肝臓の機能が損なわれる状態です。肝細胞の約3分の1以上に中性脂肪が過剰に蓄積した状態を脂肪肝と言います。

年代では、30～70代に、男性では40歳前後、女性では40代以降の中高年に多発しています。

もともと日本人は、節約遺伝子とも呼ばれる、脂肪を蓄積しやすい遺伝子の素因をもっている上に、現代の多忙で不規則な生活環境が、患者の増加に拍車をかけているとも指摘されています。

脂肪肝の状態が続くと肝臓が繊維化し、肝機能が低下し、脂肪肝炎 肝硬変 肝がんへと移行する事があるので注意が必要です。

肝硬変・・・慢性肝炎の状態が長く続くと肝硬変（＝肝臓が小さくて硬くなる）になります。

また正常に働くことのできる肝細胞の数が減り、肝臓の機能が失われて行きます。

脂肪肝の症状

肝臓は沈黙の臓器とも言われ、脂肪肝にはこれといった自覚症状がありません。発見されるパターンとしては健康診断の際の血液検査などで発見されることが、もっとも多いとされています。

血液検査でたんぱく質の量をみる、GPTやGOT、GTPといった指標がおなじみのところですが、特にGPTが基準値をオーバーしている場合には警戒してかかるべきと言えます。またアルコール性の脂肪肝の場合には、GTPの数値も高値を示します。

また、脂肪肝が進行した場合は、疲れやすい・体がだるい・食欲がないといった肝臓病の一般的症状が現れてきます。

脂肪肝の原因

脂肪肝の主な原因は、肥満・糖尿病、そしてアルコールの摂り過ぎです。

特に過剰なアルコール摂取を続けると、脂肪のたまり過ぎによって肝細胞組織が破壊され、

これを修復するためにコラーゲンが生成されます。そして、過剰に生成されたコラーゲン

が肝臓内にたまって繊維化が進行すると、肝硬変に移行する恐れがありますので注意が必要です。また近年、お酒をあまり飲まない人でも、同様の経過をたどる「非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）」が増えているといわれています。



非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH)とは・・・

お酒を飲まないから脂肪肝は関係ない・・・ということは決してありません。

近年、非アルコール性脂肪肝が増加していると言われていています。原因は脂や糖分の多いバランスを欠いた食生活や運動不足による、内臓脂肪の増加です。

また最近では、無理なダイエットを行った若い女性などが、体内のたんぱく質が不足して脂肪が排出しにくくなり、肝臓にたまることによって発症するケースも珍しくないようです。

非アルコール性の脂肪肝は、進行した場合には「非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH)」と呼ばれる病気へと進む可能性があります。

従ってアルコールを飲まない人でも肝炎 肝硬変 肝がんへと病状が進行していくことがあります。

脂肪肝の治療と予防

脂肪肝に対する薬物による治療では、確定的効果があると断じられるものはまだないようです。

それでは具体的な対策は？となりますと、食事療法と運動がその中心となります。

バランスの良い食事

成人が一日に必要な摂取カロリーは、一般的に1,600カロリー程度と言われていていますので、その線に沿って栄養バランスの良い食事を摂るように心がけます。

脂肪肝が進行している場合には糖質と脂質は控え、たんぱく質・ビタミン・ミネラルなどを十分に摂る必要があります。食べ過ぎの方は、食事を減らすことが重要です。

アルコールの飲み過ぎをやめる

脂肪肝を改善する上で、一番大事なことはアルコールを飲み過ぎないことです。アルコール性の脂肪肝の場合、禁酒すれば1～3ヵ月くらいで、GPTやGOT、GTP値も正常に戻ると言われています。

適度な運動

運動については、カロリーを消費するような運動であれば、運動の種類は問いません。短時間で激しく汗をかくような運動では、体の脂肪がほとんど使われません。

長時間の歩行や水泳など、長く続けられる運動が最適でしょう。

ホノミ漢方の脂肪肝対策は・・・

先にお話し致しました通り肝臓には代謝機能の他に、老廃物や有害物質を無毒な物質につくり替える解毒機能も合わせ持っています。ところが、脂肪肝などで肝臓の機能に障害を受けると、本来解毒されるはずの老廃物がそのまま腎臓で排泄されようとするため、腎臓機能の低下にもつながります。そして腎臓機能の低下により体内に老廃物が滞ると、肝臓に負担がかかるといった悪循環に陥ってしまいます。

そこで、より効果的な脂肪肝などの肝臓病対策としては、肝臓のみを治療するのではなく、腎臓対策も考慮に入れて、肝・腎の両方の働きを良くする薬方が必要です。

ホノミ漢方には・・・肝・腎の病の対策に『 **ジヨッキ** 』があります！

【効能・効果】

水分を好むとか、嘔気^{a)}のするとかの小便の出方の充分でない次の諸症：肝臓機能障害、腎炎、ネフローゼ^{b)}、浮腫^{c)}、カタル性黄疸^{d)}、暑気あたり

a) 嘔気：はきけのことを示します。

b) ネフローゼ：多量の蛋白尿やむくみなどの症状を示します。

c) 浮腫：むくみのことを示します。

d) カタル性黄疸：炎症性の黄疸のことを示します。



脂肪肝の対策は、ジヨッキを中心に、肝機能を整えていくための生活習慣の改善を合わせて行うことがより効果的です！

注意：脂肪肝から肝炎、肝硬変が慢性に進行し、病氣と闘う力の少ない方（陰病の疑いのある方）には体力の底上げを第一に考えパナパール・パナパール錠の活用を！